

見内の二村さん

(『たんなんの民話と伝説』 丹南ライオンズクラブ より)

大昔、見内の里に伊弉諾尊いざなのみことが天あまくだる時、先さきず剣つるぎを先さきに落とし、次つぎに鶏にわとりに、

「この剣たおが倒たおれていればコケツコと鳴け。若しし剣さが刺ささつて立たつておれば鳴なくな」

と命いのちじて、鶏とりも一いっ緒しょに降おろされました。

鶏とりは剣つるぎが倒たおれているのを見て、

「コケツコーっ」

と、天てんに向むかって大おほ声こゑで鳴ないて知しらせました。

そこで伊弉諾尊いざなのみことは、

「この土地かたは堅かたく、神かみの住すめる土地ちである」

と言いわれ、伊弉冉尊いざなみのみこと(女神めがみ)を伴ともなつてこの土地ちに降くだりられました。そして、この場所ところを神内村かみうちむらと名な付なけられました。

神内村かみうちむらは、のちに御内村みうちむら、さらに、見内村みうちむらと書かかれるようになりました。

見内の村むらでは、戦前せんぜん(昭和二〇年しやわにじゅうねん)まで、鶏とりは神かみのお使者つかひとしてこの地ちに遣つわされたものといふことことで、

「鶏とりは一切口くちにしてはいけない。鶏とりを飼かつてもいけない」

との先祖せんぞよりの言い伝つたえがあり、これを固かく守まもつてきました。

戦争せんそうが終おわつて後のち、やつと鶏とりを飼かつたり、鶏とりを食たべたりすることができるようになりました。

また、見内村みうちむらには、『黄金おうごんの鶏とりが天あまが谷やの白南天はくなんてんのその先さきに埋うめてある』という伝承でんじょうが残のこされており、ずっと昔むかしに、その場所ところを掘ほりかけた人がいたといふことです。

② 「二村神社ふたむらじんじゃ」は、伊弉諾尊いざなのみことと伊弉冉尊いざなみのみことの二尊にそんをまつた「二尊神社にそんじんじゃ」が、漢字かんじの充あてが

変わかわつて「二村神社ふたむらじんじゃ」になり、やがて読よみ方も変わかわつて「二村神社ふたむらじんじゃ」になつたといふ説

があります。